

群馬県がん患者団体連絡協議会

ニュースレター

2011年6月1日 第26号

編集・発行/(財)群馬県健康づくり財団



がん連協 総会・交流茶話会を開催しました

平成23年6月18日(土)、群馬会館1階の広間にて「平成23年度群馬県がん患者団体連絡協議会 総会」と「交流茶話会」が開催されました。

当日は、群馬大学医学部主催の市民講座が行われたため、総会には群馬大学から顧問の神田先生、二渡先生をはじめ、学校関係者の方たちにも参加いただきました。役員の変更については承認され、会長 本田攝子さん(あけぼの群馬)、副会長 一柳一男さん(ひまわりの会)、土屋徳昭さん(群馬ホスピスケア研究会)、運営委員 狩野太郎さん(群馬がん看護研究会)、監事 岡庭和子さん(生菜の会)、大島圭好さん(群馬あかぎ互療会)に引き続き役員をお願いすることになりました。続いて、平成22年度の事業計画・収支決算・監査報告があり、23年度活動計画・予算が承認されました。その後、会則の改正については市民講座が始まる時間となり、改めて検討することとし、保留になりました。

交流茶話会には市民講座の講師であるキャンサーソリューションズ代表取締役社長 桜井 なおみさんも参加していただき、群馬大学医学部の医療関係者や群馬県健康福祉部長、群馬県議会議員、そして患者会会員など総勢79名がグループに分かれ、思い思いに意見交換を行いました。桜井さんから、「群馬県にはこうした患者会や医療関係者、行政が集まる場があり、本当に素晴らしいですね」という感想をいただきました。

年に一度の総会と交流茶話会ですが、楽しみにしてくれている人も多くいらっしゃるのので、これからも続けていきたいと考えています。



がんになったら手にとるガイド見本版の提供について (国立がん研究センターHPより)

患者必携『がんになったら手にとるガイド』とは・・・
「患者必携」は、がん患者さんにとって必要ながんに関する情報を取りまとめた冊子で、がん対策推進基本計画に基づいています。がんと診断されたすべての方に、患者必携に含まれる情報を届けることで、患者さんがよりよい療養生活を送ることができることを目指しています。

この度、国立がん研究センターでは、この見本版の提供を呼びかけています。もちろん購入もできるのですが、県内患者会・患者支援団体の皆さんは応募することができますと考えられます。(応募にはいくつかの条件を満たしていることが必要です。選考の結果は発送をもって換えるとのこと)

提供予定数は250部。ひとつの団体に対して1部提供ということで、必ずしも希望団体全てに行き渡るわけではありませんが、これを機会に、積極的に情報収集をしてみたいはいかがでしょうか？

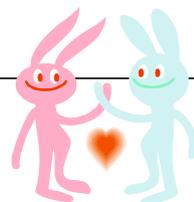
詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://ganjoho.jp/public/news/2011/20110209info.html>

がん連協事務局も我が団体の活動のPRを兼ね、応募してみようかと思っています。



♪企画委員による がんサロン訪問記♪



県内がん診療連携拠点病院に設置されているがんサロン。
どのような雰囲気、どのような話をしているのでしょうか？

ここでは、がん連協・企画委員の皆さんが参加されたサロンの様子を訪問記として紹介していただきます。

なごみサロン訪問記 (群馬大学)

根岸 利光

がんサロンという文字も言葉も、がん患者にとってさほど珍しいものではなくなったが、その扉を叩くと、いまだ多少の勇気が必要となる。群大のなごみサロンが始まって3年。外来棟と病棟をつなぐメインストリート脇の患者支援センター(この中にがん相談支援センターも含まれている)で、毎月最終水曜日の午後1時から2時間ほど開かれる。

先日のサロン(5月25日)をスケッチ風に紹介すると、患者が17人(入院中のため片方が付き添いのご夫妻が2組)、スタッフは5人(担当看護師長、副看護師長、MSW、看護学生、医師)ほど。こんなに多くの患者が参加するのは珍しく、はじめてという患者が7人もいた。スタッフの半分ほどが通路にはみ出た。

開会は、ウクレレ上手の患者さんの伴奏による合唱。始めたころは、歌うか止すかで気遣いもしたが、童謡や古い歌謡曲など、なんでもござれ... 結構ハマって、久々の同窓会みたいな雰囲気が一気に醸しだされる。

世話役のベテラン患者が、はじめての方に気遣いながら手短かに自己紹介を勧める。胸に貼った手書きの名札を指しながら、病名と症状、参加した目的などを話す、そのまま話し込んでしまう人もいて、なかなか一巡しない。はじめて顔を合わせる方が少なくないはずなのに、すでにがん友。始めから気心を許した会話が始まる。この傾向はどこでも一緒だ。

「忘れられる時間があると救われる」「折角がんになったので、この気持ちを分かってくれたいと思うようになった」「とりつかれた以上たかかわなければならぬ。相手にとって不足はない」「抗癌剤をやっている。終わる頃になってようやくサロンを知った。もっと知らせることを考えて欲しい」「自分の痛みを誰も分かってくれない。せめて同じ病の人と話したかった」「遠いので入院中でないと参加できない」「旅が好き。群大ホテルにいる気分」「先生には、痛みが出たらとってくれと言っている」「日記を書いている。(新しい日記帳を買うか)考えたがまた買った。いつまで書けるか」「がんの人は暗いと思っていたが、どうしてどうして(明るい)」「今年は稲の手植えをしたが、収穫までは？ 痛みはない。これからがんらしくなってくるかも」「無理に明るくする必要はない。自分なりでいいのでは」

あえて話題を整理しようとしなから一見脈絡がないようだが、ベテラン患者も近々に手術日を控えた超新人患者も、それなりに琴線に触れた会話を楽しみながら明日からの人生に糧を得たように見える。
がん以外のことにも話題がおよび、吉本興業が今にもスカウトに飛んできそうな方々がいて、時間が瞬間に過ぎ去った。

スタッフのみなさんはお茶などの接待に気配りしながら、患者同士で解決出来ない問題のサポートに余念が無い。苦情や要望がいつの間にか取り入れられ、サロンが近づきやすいものに進化していることが実感できる。



掲示板



☆生菜の会☆ 相談会を行っています・・・

◇生菜の会の岡庭さんは、ご自身が開催している気功教室の後、自然になんでも話ができる場ができたそうです。
そこで、毎月1回、第一木曜日、高崎総合福祉センターで15:30~17:00まで、相談会を行っています。
日ごろ思っていること、不安なこと・・・
気軽に話をしてみてはいかがでしょうか？
事前予約を受けておりますので希望される方は岡庭さんに直接連絡をお願いします。

生菜の会 代表 岡庭和子
連絡先：027-361-3568

・・・編集後記・・・

普段、足を踏み入れたことのない書店の児童書コーナーに立ち寄り、その充実ぶりに驚きました。小さい時に読んでいた本が今も出版されていると妙にうれしく、名作は読み継がれるのだなあ感慨深かったです。

家で本の整理をしていると、「マザーグースのうた」、「エルマーの冒険」、「恐竜図鑑」、子ども向けの世界・日本名作童話などが出てきて、ついつい読みふけてしまいます。

とりわけ、物語の中で、おいしいなごちそうや、和尚さんが小僧さんに隠れて食べているお餅が出てくる絵が今も記憶に焼き付いていて、改めて自らの食いしん坊ぶりに驚きます。

編集担当 荒木 美保

【事務局】
〒371-0005
群馬県前橋市堀之下町16-1 群馬県健康づくり財団 総務部内
電話 027-269-7811